

愛知県 中高一貫教育導入方針（案）におけるパブリック・コメントの結果について

「愛知県 中高一貫教育導入方針（案）」に対して、2022年11月28日から12月27日までの間にパブリック・コメントを行い、49人から92件の意見の提出がありました。

提出された意見につきましては、項目ごとに区分して、県の考え方を整理しました。

2023年1月16日

<集計結果>

・提出人数： 49人 ・提出件数： 92件

■提出方法

区分	メール	郵便	FAX	合計
人数	46	2	1	49
%	93.9	4.1	2.0	

■地区別

区分	名古屋	尾張	知多	西三河	東三河	県外・不明	合計
人数	12	11	2	7	3	14	49
%	24.5	22.4	4.1	14.3	6.1	28.6	

■年齢別

区分	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代	不明	合計
人数	5	1	7	9	5	6	2	14	49
%	10.2	2.0	14.3	18.4	10.2	12.2	4.1	28.6	

■職業別

区分	教職員	会社員	学生	公務員	団体	その他	不明	合計
人数	8	13	6	2	1	5	14	49
%	16.3	26.5	12.2	4.1	2.0	10.2	28.6	

※職業別（補足）

- ・教職員： 教員
- ・会社員： 会社員
- ・学 生： 中学生、大学院生
- ・公務員： 公務員
- ・団 体： 研究団体
- ・その他： 主婦、無職

1 中高一貫教育導入の経緯・ねらい（P 1）

（1）御意見の概要（9人）

番号	応募者 番号	御意見の概要
1	2	中高一貫により、早期に進路決定をして、学習領域を限定してしまう。また、高校入試を通じて、15歳で自分の個性や人生を考えることにも意義がある。そのため、公立中高一貫校は必要がないと思う。
2	3	<p>生徒の個性や創造性を伸ばすとあるが、どのくらい伸びるのか、具体的な達成目標が見られない。欠員が出ているからとの理由で、特色化に付き合わされる生徒が可哀想である。チェンジ・メーカーの育成とあるが、変革が必ずしも必要ではないし、人から押しつけられた変化は無意味である。</p> <p>また、西尾は独自の閉鎖性から、長い目で見た時、西尾のニーズに応えられない。正直、現状の西尾高校の施設設備の老朽化はひどいものがあり、そこに対する手当もないまま、新しいことだけは初めていくのか。やりっぱなしになることが容易に想像できる。</p> <p>やはり、在籍する生徒に満足いく環境を与えることが大事ではないか。教育に対する理念が見えず、方針案からは、生き生きと活動し、成長していく生徒の姿が見えてこない。</p>
3	18	今頃から始めても遅すぎる。今から私立の真似をしても上手くいかず、私立に流れるだけだと思う。
4	26	<p>中高一貫教育の必要性や、他県の成果や課題などの説明がなく、導入ありきで進められている点が危惧される。中等教育学校であれば、独自のカリキュラムでの探究的な学びは可能となるが、併設型では中高一貫教育のメリットが薄れ、受験戦争に拍車をかけると思う。</p> <p>学校現場の声が十分に聴かれずに進み、意見を述べる場があるのか疑問に感じる。高校の欠員対策の一貫として取り入れられた施策だと思うが、ある中学校や高校の先生に聞いても、公立高校は校舎を建て替えれば、みんな行きたがると聞く。一番やらなければいけないことは、すぐにでも校舎の建て替え計画を示し、10年間で完全建て替えを完了することの方が優先順位は高いと思う。現在、築60年の校舎を長寿命化工事によって20年延長する工事が始まっているようであるが、20年後の計画を意識している人がどれだけいるのだろうか。</p> <p>今回の導入校は、定員割れする心配はない学校に対して、より強い特色を持たせる形となっている。スーパーエリート校とする趣旨であれば良いが、そうでなければ、趣旨と学校選定にずれを感じる。</p>

番号	応募者 番号	御意見の概要
5	32	<p>欠員の増加が中高一貫教育導入の理由としているが、欠員の原因は、校舎の老朽化に尽きる。パソコンを使って授業を行う際に、スクリーンを黒板に貼り付けなければいけない、すぐ切れる水銀灯、雨漏りのする校舎に、中学生は魅力を感じるだろうか。また、公立高校が特色化を打ち出すなら、少人数学級を推進すべきだと思う。35人学級、30人学級と少人数学級にすれば、より細やかな指導ができる。今こそ少人数学級を実施する最大のチャンスではないのか。少人数学級の導入や、教員の多忙化解消にやる気がないことははっきりして失望した。</p> <p>中高一貫校が定員割れを続けても、中高一貫教育を簡単に止めることはできないので、児童のニーズの把握が必要である。また、高校の教員免許を持つ中学教員や、中学の教員免許を持つ高校教員の教員数を把握することも必要ではないか。</p>
6	39	<p>教育改革は、緩やかに確実に進めることは大切だと思うが、ある程度変える割合が大きくなると、改革側の教委に緊張感がなく、本当の改革にならないと思う。思い切った改革を進めてもらいたい。近い将来、高校入試のない中高一貫校で、ゆとりある探究活動が展開されることを期待している。</p>
7	42	<p>探究学習重視型の教科学習に、少人数・習熟度別指導となっており、それはとても良いことであるが、一部の選ばれた子供たちだけでなく、全ての子どもたちが恩恵に浴すようにしてもらいたい。少子化が進んでいる今こそ、チャンスだと思う。</p> <p>不登校・外国にルーツのある生徒を対象とした中高一貫校で、スクールソーシャルワーカーやスクールカウンセラーなどの常駐化を検討することは、とても良いことであるが、全ての学校の生徒が恩恵にあずかれるよう人数を増やしてもらいたい。</p>
8	43	<p>中高一貫教育導入のねらいとして掲げられている「チェンジ・メーカーの育成」は、学習指導要領で求められているねらいそのもので、中高一貫教育を導入して求めるねらいではないように感じる。愛知県への導入の理由が、他県に比べて遅いからとう風にしか見えてこない。</p> <p>また、私立高校への入学志望者の増加や県立高校の魅力の低減を欠員の要因とし、中高一貫校の導入の意義を説明しているように見える。これらの対策は、ストレートにアプローチして解決すべきであり、中高一貫教育の導入で解決する姿勢には、疑問を感じる。</p>

番号	応募者 番号	御意見の概要
9	44	<p>県立高校の欠員が増加した状況の原因をとらえ、総括を行った上で、対策を立てることが求められると思う。</p> <p>将来の予測が難しい社会で必要とされる教育は、基礎基本を理解するとともに、豊かな人間関係を結ぶことができる総合的な発達・成長を保障することだと思う。早期に他の生徒と分離したり、広域から選ばれた生徒だけを集めることではないと思う。</p> <p>高校受験による負担を考慮して改革を行うなら、中卒者が減っていく今こそ、希望者全入とするのが良いと思う。それにより、より多くの子どもの学ぶ意欲と探究心を引き出すことができると思う。</p>

(2) 県の考え方

ア 中高一貫教育導入の経緯

従来の中学校・高等学校の制度に加えて、生徒や保護者が6年間の一貫した教育課程や学習環境の下で学ぶ機会を選択できるようにすることにより、中等教育の一層の多様化を推進し、生徒一人一人の個性をより重視した教育の実現を目指すものとして、1999年度より、中高一貫教育を選択的に導入することが可能となりました。

中高一貫教育には、以下のような利点があり、既に41都道府県の公立学校で導入がされています。

- ①高校入試の影響を受けずにゆとりのある安定的な学校生活が送れること。
- ②6年間の計画的・継続的な教育指導が展開でき効果的な一貫した教育が可能であること。
- ③6年間にわたり生徒を継続的に把握することにより生徒の個性を伸ばしたり、優れた才能の発見がよりできること。
- ④中学校1年生から高校3年生までの異年齢集団による活動が行えることにより、社会性や豊かな人間性をより育成できること。

そして、こうした背景や、教育関係者による提案を踏まえ、愛知県における中高一貫教育の導入について検討を開始しました。

検討に当たっては、教育関係者による「中高一貫教育導入検討部会」を設置して、本格的に検討を進め、「愛知県 中高一貫教育導入方針（案）」を取りまとめました。

なお、県立高校の魅力化・特色化、再編について御意見をいただきましたが、県立高等学校再編将来構想の取組の検証と更なる具体化について検討する「県立高等学校再編将来構想具体化検討委員会」を設置しておりますので、こちらの方で検討していきます。

イ 中高一貫教育を導入するねらい

現在の社会は加速度的に変化し続けており、将来の予測が極めて難しい時代となっていることから、様々な人と協働しながら、答えのない課題に対して、失敗を恐れずにチャレンジし、社会に変化を起こしていくことが必要となっております。

そうしたことから、様々なタイプの中高一貫教育を導入し、一人一人異なる個性をもつ子どもたちの可能性を最大限に引き出し、伸ばす学びを進めることで、より個性や能力を発揮して、様々な場面で変化を起こす人を育てていければと考えております。

2 教育内容（探究学習重視型）（P3～P5）

（2）御意見の概要（5人）

番号	応募者番号	御意見の概要
1	23	<p>中学生の中には、興味・関心の高い分野や希望する職業がはっきりして、学習意欲や学習能力が大変高い生徒がいる。しかし、そういう生徒は、進学校への入学を希望する傾向が強く、内申点を取るための定期テストの勉強や受験勉強に時間を割かざるを得ない。そのため、中高一貫教育により、高校受験のために費やす時間を探究学習や違う形で使えることは、大変意義深いと感じる。</p> <p>実際、総合的な学習の時間にとどまらず、教科学習の中でも探究学習や協働学習の時間を確保したいという理想はあるが、高校入試に向けた授業に時間を割かなければならない現実があり、理想と現実にギャップを感じている。</p>
2	28	<p>学力やスポーツのみならず、生徒が自主的に学外活動で様々な人と触れあい、場合によってはリーダーとしての役割を経験する。そして、生徒が个性的に長所を伸ばし、ゆとりある中高一貫校ならではの、学力、スポーツ、学外活動を組み合わせた自己PRを出来るようになっていくのが、グローバル基準の教育だと思う。そして、ここで教育を受けた人が、グローバル社会で活躍でき、日本の将来の礎になると思う。また、こうした活動を、成績に反映させることも考えられると思う。</p>
3	43	<p>課題解決型学習に関する文章は、主語・述語の関係が不明瞭となっている。分かりやすい文章にしてもらいたい。</p> <p>また、中学校と関連の深い高校の学習内容を、中学校段階からしっかりと触れるとあるが、関連深い学習内容は多種多様で、どのように精選するのだろうか。教員の負担が増大することも予想される。どのような課題やリスクが生じるかをシミュレーションして、対策をきちんと講じておくことが大切だと思う。</p>
4	46	<p>中高一貫教育は、高校受験による探究活動の中断がなく、とても良い試みだと思う。</p>
5	48	<p>SSHの取組を生かすからといって、理数系に偏らず、生徒の個性を重視しつつ、人文社会系の探究にも力を入れてもらいたい。また、高度な学習をする分、生徒に負担がかかると思われる。学習につまずいた際に、それを支える仕組み（大学生などの支援員を配置するなど）の充実が必要だと思う。</p>

（2）県の考え方

2022年度実施の高等学校学習指導要領のねらいなどにも示されているとおり、これからの教育には、生徒の探究心に応える「深い学び」が重要であります。しかし、探究学習は、「課題の設定」「情報の収集」「整理・分析」「まとめ・表現」の過程を経ながら行うことから、探究学習を深めるには、ゆとりのある時間が必要となります。そこで、中高6年間ゆとりのある計画的・継続的な指導が行える中高一貫教育制度を活かして探究学習を深めていく、探究学習重視型の中高一

貫校を、7校設置することとします。

また、探究学習では、発展的な知識を活用することで、より深い学びにつながるものと考えております。中高一貫教育制度は、教育課程の特例措置として、高校の指導内容を一部、中学校へ移行すること、いわゆる先取りが可能です。そこで、大学受験対策として知識の習得を早めることを目的とするのではなく、探究学習を深めるため、中学校と関連深い高校の学習内容に中学校段階から触れ、魅力ある中高一貫校としていきたいと考えております。

なお、具体的な教育内容については、導入校ごとのワーキンググループで検討していきますので、今回いただいた御意見も参考にさせていただきます。

最後に、課題解決学習に関する文章については、以下のとおり、見直すこととします。

「高校受験の影響を受けずにゆとりをもって中学の授業を行えることから、生徒に各教科の授業と総合的な学習の時間で、課題解決型学習にしっかりと取り組ませることにより、生徒一人一人の学ぶ意欲や探究心を十分に引き出す。」

3 グローバル教育・国際バカロレアの導入（P3・P5）

（1）御意見の概要（5人）

番号	応募者番号	御意見の概要
1	21	世界に通用する人材を増やすことは急務であり、国際バカロレアの導入は必要だと思う。
2	31	グローバル探究実施校では、国際的に活躍する人材育成が必要である。そのため、教員は、JICA 海外協力隊で派遣された経験がある者を優先して配置すべきだと思う。生の体験を元に教育しないと説得力が生まれないと思う。
3	32	日本国内で、国際バカロレアに通用するカリキュラムを組んでいる高校がどれだけあるのだろうか。津島・西尾高校で160人のためのカリキュラムが組めたとしても、少数のために大多数の生徒が犠牲になるのではないだろうか。教科指導だけでなく、生徒指導や、部活指導、進路指導、保護者対応などに追われている中学・高校の教員で、国際バカロレアに通用する指導力をもった教員が、どれだけいるだろうか。
4	43	「グローバル」とあるが、一般的に通用する言葉になっていないと思う。県民や保護者への理解を広めていくために、難解な言葉を使わない方が良いと思う。
5	49	名古屋大学では、留学生が増えている。豊橋市では、エマージョン教育を行っているし、外国人も増加しているので、留学生との交流など、愛知県民が世界とつながりやすい環境をつくってもらいたい。

（2）県の考え方

国際バカロレアは、多様な文化の理解と尊重の精神を通じて、より良い、より平和な世界を築くことに貢献する、探究心、知識、思いやりに富んだ若者の育成を目的としております。そこで、海外との交流などに取り組んでいるグローバル探究実施校へ、国際バカロレアを導入し、グローバルな探究学習をより深めていきたいと考えております。

国際バカロレアは、中学校と高校とでプログラムが分かれております。

中学校のプログラム（MYP（Middle Years Programme））は、どの言語でも実施可能で、中学校全生徒に導入するものであります。

高校のプログラム（DP（Diploma Programme））は、大学入学資格の認定証書（Diploma）を得るため、2年間履修し、最終試験を経て所定の成績を収めると、国際的に認められる大学入学資格の取得が可能となるものであり、原則、英語、フランス語又はスペイン語で行う必要があります。しかし、2015年度から、一部の科目が日本語でも実施可能（最低2科目（外国語含む）は英語で実施）なプログラム（日本語DP）が、開始しました。また、高校のプログラムは、中学校のプログラムとは異なり、全生徒を対象とする必要はなく、一部の生徒を受講対象とすることも可能であります。

近年、公立の中高一貫校で、一部の生徒に対して日本語DPによる国際バカロレアの導入が増えてきておりますので、他県の事例や、今回いただいた御意見を参考にしながら、教育内容等を検討します。

最後に、「グローカル」という言葉は、文部科学省の事業名に含まれておりますが、造語でありますので、以下の注釈を付けることとします。

グローカル：グローバルとローカルを組み合わせた造語で、地球規模の視野で地域の課題について考えること。

4 内進生と外進生の関係（探究学習重視型）（P 3～P 5）

（1）御意見の概要（4人）

番号	応募者番号	御意見の概要
1	23	入学者は、中高一貫教育の趣旨に賛同して中高一貫教育を選択しているので、特色ある中高一貫教育ならではの教育内容を6年かけて行うことが望ましいと思う。内進生と外進生を混合することで、高校受験と中学受験ではどちらが入学しやすいかと考え、中学受験が過熱化していくのではないかと懸念される。
2	39	中高一貫教育にすると、複数の学年で交流したり、段階的に課題研究を進めて共同研究の機会を設けることもでき、効果的であると思う。しかし近い将来には、すべての生徒に、均等な国際交流や探究活動の機会を与えられるよう、中等教育学校への移行も視野に入れてもらいたい。通学区域が比較的広い明和、刈谷、時習館などは、中等教育学校へシフトしても良いのではないと思う。
3	40	内進生と外進生をどの段階で混合できるのか。探究学習のみであっても内容をそろえるのは、かなり工夫が必要かと思う。
4	44	高校の学習内容を中学校段階からしっかりと触れるとあるが、大学受験に特化しなければ授業進度を早めることもあり得、早期教育を行うこととなる。その結果、外進生との間に落差が生まれると思う。 内進生と外進生との関係は、学習だけでなく、心理的な配慮なども必要だと思う。内進生と外進生の混合時期は、時期だけの問題だけでなく、それ以前とそれ後の配慮や対応を示すことも大事だと思う。

（2）県の考え方

併設型は、中学校段階と高校段階のそれぞれから入学することが可能であり、その高校に通いたいという生徒のニーズに、幅広く対応することが可能だと考えています。また、内進生と外進生と一緒に学ぶことにより、内進生と外進生が切磋琢磨できるという相乗効果も期待できます。そうしたことから、中等教育学校ではなく併設型で導入することとしました。

次に、内進生と外進生の混合時期ですが、他県を見ますと、内進生と外進生が1年生から混合しているケース、内進生と外進生が2年生から混合しているケース、内進生のための学科を設置して混合しないケースがあります。そのため、内進生と外進生の混合時期については、各校の教育内容を踏まえつつ、今回いただいた御意見を参考にしながら、導入校ごとのワーキンググループで検討します。

5 学級編制（探究学習重視型）（P 3）

（1）御意見の概要（1人）

番号	応募者 番号	御意見の概要
1	44	基礎基本の定着に、少人数・習熟度別指導が有効であるとしている。それならば、すべての中学生に保障することが必要だと思う。県下の全ての公立中学校1年生は35人以下の学級で編制されているが、明和高校音楽科を除いて、中学校1年生から40人学級を前提にしており、不公平な対応だと思う。

（2）県の考え方

中学校の学級編制は、1学年40人学級が標準とされています。そのため、多くの都道府県の併設中学校では、1学年40人単位の募集となっています。

愛知県は、公立中学校の1年生で、独自に35人学級としていますが、中学校2年・3年は40人学級となっています。

現在、国においては、小学校3年生までが35人学級で、4年生以降は、学年進行で少人数学級化を進めております。しかし、中学校が35人学級となる時期は未定でありますので、当面、併設中学校の1学級の人数は、40人を想定しています。

6 音楽科設置校（明和）（P 3・P 5）

（1）御意見の概要（3人）

番号	応募者番号	御意見の概要
1	28	音楽を続けるためには、家庭の事情に依存するので、経済的支援があると、より公立校としてのメリットが活きると思う。これを長く続けていくと、将来大きな芽が出る人材を輩出できると思う。
2	43	中学校の学習指導要領に即した音楽科の指導内容や指導時間で、個々の音楽の才能をどこまで引き出せるのか疑問に感じる。さらに、広く教養を身に付け、現代社会とのつながりを意識したアーティストの輩出といった大きな目標が掲げられていることから、内進生が外進生に比べてアーティストとして大成することに優位であることが期待されると思う。教員も生徒も極めて高いハードルに挑戦することになるのではないだろうか。 また、小6の12歳の段階で、アーティスト志向の音楽科を進路選択させることは、過酷すぎるような気がする。アーティストとして期待される中高一貫校で限界を感じる状況が生まれたら、教育的に悲劇的である。 そして、遠方からの通学による交通費の負担や、家庭でのレッスン受講など、経済格差と教育格差を助長することになれば、問題であると思う。
3	44	音楽の専門家の育成から、現代社会とのつながりを意識したアーティストの輩出と、教育目標が変わっており、普通教育を保障する義務教育と、どうつながっていくのか分からない。

（2）県の考え方

音楽コースでは、教育課程の特例の活用により、音楽に関係する学校設定教科を設けるなどして、中学校での音楽の学びを充実することを考えています。また、音楽の専門的な技術を身に付けるだけでなく、音楽と現代社会のつながりを意識するよう、広く教養を身に付けていくことも重要だと考えております。そして、こうした学びを経た内進生が、明和高校音楽科から入学した外進生と混合することで、併設型の利点である切磋琢磨が生まれると考えられます。

次に、中学生の中には、併設の高校とは異なる進学先を希望するケースが出てくるのが想定されます。その際には、生徒が自分の個性にあった進路選択ができるよう、生徒や保護者に対応していくものと考えております。

なお、音楽コースの具体的な教育内容は、今回いただいた御意見を参考にしながら、導入校ごとのワーキンググループで検討します。

7 教員配置（探究学習重視型）（P6）

（1）御意見の概要（4人）

番号	応募者番号	御意見の概要
1	21	中高一貫のメリットは、中一から高三まで途切れなく担任を持てることで、中学校勤務経験がある現職高校教員を配置すべきである。中高の交流人事を加速すべきで、別枠で教員を確保する必要はないと思う。
2	23	小中連携はあるが、中高の連携・交流はほとんどなく、中学校教員と高校教員との互いの教育内容や子どもたちの発達段階についての理解が浅い現状がある。中学校教育と高校教育のそれぞれの意義を保ちつつ、新しい教育をするためにも、高校教員と中学校教員がタッグを組んで新たな教育内容を生み出し、中高一貫教育をすることで、これまでにない学びが提供できるようになると思う。
3	31	中高の人事交流を、小中の人事交流と同数として、オールマイティーな幅の広い教員の人材教育を行い、併設中学校には、中学校での教員経験のある高校教員を配置すると良い。別枠で採用するのではなく、現在の教職員がもっと学び・経験を積むのが良い。
4	39	働き方改革への認識が急速に広がり、課題研究に対する教員の意識が低調になっているように感じる。日頃から探究活動を見守り、修正・改善、工夫点の指摘など指導を加えていく必要があると思う。働き方改革を否定しているのではなく、教育活動との共存を考えている。働き方を考えながら、生徒の探究活動に持続的に取り組めるよう、教員に持続的な余裕を持たせ、意欲的な教員集団を配置してもらいたい。公募制や基幹教員の配置もあわせて検討してもらいたい。

（2）県の考え方

中学校の教員には、中学生への指導経験を生かしたきめ細かな指導が、高校の教員には、高度な探究学習や発展的な学びの指導に強みがあります。

そこで、中学校教員、高校教員それぞれの強みを生かして、併設中学校には、中学校教員と中学校の免許を持つ高校教員を配置したいと考えております。

また、市町村立の中学校から派遣されて併設中学校に勤務する教員が、これまで経験したことのない、中高6年間の子どもの成長の様子を間近で見ることができ、数年後に地元の中学校に戻った時には、中高一貫教育の中で培った高い指導力を授業に生かすことができると考えております。

今後、高校の教員が、中学校の学びを経験できるよう中高人事交流を進めていきますが、中学校の教員に欠員が生じ、中学校現場では教員不足となっておりますので、中高一貫校に勤務する教員を、別枠で確保する必要があると考えております。

なお、教員配置については、今回いただいた御意見を参考にしながら、導入校ごとのワーキンググループで検討します。

8 入学生徒の選考方法（探究学習重視型）（P 6・P 13）

（1）御意見の概要（4人）

番号	応募者番号	御意見の概要
1	22	受験に失敗して中高一貫校に進学できず、学区の中学に進学せざるを得ない子どもたちが新たに大量に生まれることが想定される。まだ、検査内容が決まっていないのに、学習塾の講座が始まっている。万全な対策を受けられる経済的に恵まれた子女のみの通う学校とはならないだろうか。小学校低学年からの「受験競争」で子どもたちの受ける心の傷は計り知れないものとなることを危惧している。
2	39	中学入試を必要以上にあおらないように、AIを用いた評価方法などを導入して中学選抜方法を十分に検討してもらいたい。
3	40	6年間に耐えうる小学生の選考がどのようにできるかが心配。 高校への進学時のドロップアウトが出ないか、その場合の進路指導が十分できるのか、肝心の選考方法は該当校で検討されるというのはどうだろうか。
4	46	能力が優れていても、抽選に落ちて入学できないのは、受験生にとって不利益だと思う。能力がある児童がより良い学校で学ぶ機会を得られる方が良いと思う。

（2）県の考え方

愛知県の公立中学校において、適性検査を初めて実施することとなるため、保護者が不安を抱き、中高一貫校を目指す子どもたちの学習が、過度の受験対策に傾いてしまうのではないかと、また、探究学習重視型の中高一貫校は、県内有数の進学校でもあることから、難関大学へ進学するための指導を期待して受験する子どもの割合が多くなってしまっているのではないかなど、受験の過熱化に対する懸念があります。

そこで、適性検査の内容は、小学校学習指導要領の範囲内で、思考力や判断力などを総合的に測るものとし、高度な知識や知識の量を求める学力検査とはしないこと、また、中高一貫校では、探究的な学びを重視し、大学受験に特化した学習指導は行わないことなどを、来年度秋、導入校ごとに開催する説明会で、保護者を始めとする関係者に伝えていきます。そして、来年度の秋から冬頃には、適性検査のサンプルの公表も考えております。

なお、適性検査の詳細な内容については、今回いただいた御意見を参考にしながら、別途ワーキンググループを設けて検討します。

9 導入校の配置・学区（探究学習重視型）（P6・P7）

（1）御意見の概要（9人）

番号	応募者番号	御意見の概要
1	21	高校入試に対する中学生の過度な負担を減らすだけでなく経費削減になるため、中高一貫校を増やしていく必要があると思う。
2	23	中高一貫教育に魅力を感じる子どもや保護者が増えているが、中高一貫校は名古屋市に多く、また学校数が少ないため、市外からの通学時間がかかったり、過度の受験勉強を強いたりしている。中高一貫教育を望みながらもあきらめていた子どもや保護者に選択の機会を与えるためにも、現場の教員にヒアリングを行いながら、導入校の拡充を検討してもらいたい。
3	24	明らかに、名古屋の学校が少ない。また、明和高校は、偏差値が高く80名のみでかなり狭き門となる。さらに、愛知県の人口のうち、多くが名古屋・尾張で占めており、半田高校と津島高校には通えない人口が大半であるため、名古屋の学校を増やすべきだと思う。 また、募集人員も160人程度を増やすべきだと思う。開校年度は、他県からの遅れを取り戻すため、第二次導入校も2025年4月にすべきだと思う。
4	28	大いに賛成し期待している。第二次まで決定しているが、それ以降も導入を積極的に推進してもらいたい。 海外でエリートを輩出している学校は、全寮制としているケースがある。学生寮は、学生同士深い絆が生まれ、社交性が上がり、国際的なリーダーとして活躍できる可能性がある。愛知の中高一貫校から、愛知・日本を率いる国際的なリーダーを輩出できるような、グローバル基準の学生寮を併設できたらと思う。
5	29	地理的にばらつきがあると思う。名古屋から通える学校は、明和のみで、募集人員を考えると難関校となる。明和の募集人員を増やすとともに、学校数を増やすべきだと思う。
6	40	時習館高校は、三河学区の交通の拠点としての意味合いもあると思うが、交通の便の悪い奥三河や西三河北部からは通学が困難なため、一部地域の生徒のみが対象になると思う。
7	41	第一次導入校では、三河地区が刈谷高校のみで偏りが明らかなのに、なぜ、豊田西・時習館・西尾高校は、第一次導入校とならなかったのか。
8	44	学区については、中学生であり、本人と保護者の負担に配慮して、県内全域は出来る限り避けることが必要だと思う。津島高校は、普通科の一部を改編しなくても、コース制などでも対応可能ではないだろうか。
9	46	高校受験の学区で併設中学校の学区を分けると、中学生には少し負担が多くなることもあるので、もう少し併設中学校の学区を細分化した方が良いと思う。 また、名古屋市は人口の割に導入校が少ないように感じるので、今後さらなる追加導入を検討してもらえればと思う。

(2) 県の考え方

ア 導入校の配置

始めに、高校から中高一貫教育の導入に強い関心があり、地域の教育関係者から導入の検討に一定の理解を得られた、明和・津島・半田・刈谷高校の4校を、第一次導入候補校として検討し、7月26日に、第一次導入校として決定しました。

しかし、第一次導入校が、尾張方面に偏っていたことから、地域バランスを考慮して、三河エリアを中心に、数校、追加設置することを検討しました。そして、豊田西・時習館・西尾高校の3校を、11月28日に、第二次導入候補校として決定しました。

探究学習重視型は、第一次導入校と第二次導入校の追加により、地域的にバランスのとれたものとなったと考えておりますので、まずは、第一次導入校と第二次導入校の設置に向けて準備に取り組んでいきます。

イ 学区

全国状況を見ると、高校の全ての通学区域に中高一貫校が設置されている場合は、併設中学校の学区は高校の学区に準じて設定しています。しかし、高校が全県一区であったり、複数学区であっても全ての学区に中高一貫校が設置されていない場合は、併設中学校の学区は県内全域となっています。

そうしたことから、愛知県では、内部進学する高校の学科に応じ、愛知県立高校の通学区域に準じて設定することとします。

10 不登校生徒を対象とした中高一貫校（日進）

(1) 御意見の概要（9人）

番号	応募者番号	御意見の概要
1	1	発達障害児童への認知は上がっているが、発達障害児童への学習評価をしない学校もあり、進学に難を抱え、やむなく進学をあきらめたり、遠い地区への通学・引っ越しを検討せざるを得ない実情もある。発達障害児童の将来と能力育成について、展望を持っているかが不明である。
2	12	不登校の子を集めるのではなく、不登校にならないように教育現場を見直すのが先だと思う。
3	20	不登校になる原因を取り除くことが必要である。さらに、被害者を動かすのではなく、加害者を集めて教育することが大事だと思う。家庭事情による場合は、行政や警察と連携して文化的な生活が送れるよう配慮してもらいたい。
4	21	いじめによる不登校の後に自殺する前に生徒を守り、中学・高校で安心して学ぶ環境が必要で、県内にもっと多く設置すべきだ。 日進高校には、不登校経験のある生徒を現在指導していて中学校経験のある高校教員を配置すべきである。 愛知県モデルとして、是非とも丁寧な対応が出来る中高一貫校としてもらいたい。また、待ち望んでいる父兄が多く、開校は、2025年度に前倒しすべきだと思う。
5	26	不登校への対応は、とても大切な視点であるが、具体的な内容が述べられていないことが心配である。通常とは異なる教員の加配や専門の資格、研修制度などが必要で、従来の定数の考え方のままでは、負担が大きすぎて運用できないことから、教員の確保が急務である。この取組が成功すれば、そのノウハウを県立高校に還元して、多くの高校での不登校生徒の対応に活かすことができ、意味のあるものになると思う。
6	31	中学校から6年間安心して過ごせるために、中一から高三まで同じ担任にすると良い。そのため、中学で経験のある高校教員を配置すべきだと思う。 また、登校が難しい生徒には、授業についていけず、さらに不登校とならないようにするため、通信制と併用したり、ICTを活用して自宅で授業を受けられたりすると良い。
7	42	不登校・外国にルーツのある生徒を対象とした中高一貫校で、スクールソーシャルワーカーやスクールカウンセラーなどの常駐化を検討することは、とても良いことであるが、全ての学校の生徒が恩恵にあずかれるよう人数を増やしてもらいたい。

番号	応募者 番号	御意見の概要
8	43	<p>通級による指導を導入するとあるが、通級による指導は、前提として障害を有する児童生徒が対象である。不登校生徒が障害をもっているならば、その用語も使い得るが、不登校生徒に対する指導として通級による指導を行うという、文言の使い方はできないと思う。</p> <p>日進地区やその周辺に不登校の児童が多いとか、地域からの要望が多いからという理由があれば、地域の教育ニーズに対応することは理解されると思う。ただ、欠員が常態化して生徒数が少なくなり、他の高校に比べて教員に余裕があつて導入されるということでは、教育的施策として期待ができない。成果を高める観点から、客観的かつ合理的な検討をお願いしたい。</p>
9	44	<p>不登校生徒のために、1学年1学級の小規模な編成など、特別な配慮が必要なことは理解できる。しかし、日進高校は、通学に便利な場所ではなく、距離や時間、交通費などが障壁となるかもしれない。通いやすさも大事だと思う。</p> <p>また、全県的な課題であるので、生徒の学習権を保障するために、全県1校とは限らず、通いやすさに配慮して配置を検討してもらいたい。</p>

(1) 県の考え方

中学校における不登校生徒数は増加し、全国的な課題となっており、中学校で定められている授業時間数を減らすなど、柔軟な教育課程を編制することができる「不登校特例校」の設置が進んできています。

また、不登校特例校による中高一貫校は、公立では未設置ですが、不登校の生徒が、高校卒業まで安心してゆとりをもって学び、さらに、高校卒業後の進路選択につなげていくことができることが利点だと考えられます。

そこで、学び直しや、少人数教育、個に応じた学びに実績のある日進高校で、不登校特例校による中高一貫教育を導入することとしました。

次に、不登校生徒を対象とした中高一貫校の追加設置ですが、このタイプの中高一貫校は、全国でも例がないこともあり、まずはモデル的に1校設置することとしております。

なお、具体的な教育内容は、今回いただいた御意見を参考にしながら、導入校ごとのワーキンググループで検討します。

最後に、通級による指導に関する文章については、以下のとおり、見直すこととします。

「高校では、学び直し、少人数、個に応じた指導を学びの柱とし、生徒の状況に応じて通級による指導を行う。」

1 1 外国にルーツのある生徒を対象とした中高一貫校

(1) 御意見の概要 (27人)

番号	応募者番号	御意見の概要
1 ~ 17	4, 5, 6, 7, 8, 9, 10, 11, 12, 13, 14, 15, 16, 19, 20, 30, 45	外国にルーツのある生徒を対象とした中高一貫校には、反対する。外国にルーツのある生徒に対し、日本人の税金を使う必要はない。自分が払った税金は、日本国籍を有する人に税金は使われるべきである。どうして日本の子ども達を優先しないのか。
18	17	ルーツ（両親等の国籍）で取扱いを変えるのではなく、外国にルーツのある生徒がいることを、通常の状態にした方が良いと思う。多くの同世代の日本人の生徒と共に学び、毎日コミュニケーションを取る中で、自然に学校生活や日本社会に溶け込み、お互い尊重し合うことで、適度な異文化交流が出来ると思う。
19	20	外国の人に教育が必要であれば、母国語と母文化を学ぶなどの特別待遇ではなく、まずは日本の文化や風習、言語を学び、一般の公立校で学ぶことで良いのではないか。
20	28	中高一貫教育により、海外にルーツのある生徒の能力、可能性を最大限に引き出し、さらに、経済事情に関わらず大学進学出来るよう、県立大学への推薦や、他大学への進学が出来るように実績をつくるのが、愛知県における将来のリーダー的人材として活躍することができ、愛知の発展につながると思う。
21	34	外国のことを良く知っている先生や、外国人の先生、少しでも外国語が話せる先生、外国人を理解できる先生や、特別支援の先生、しかる時はしかり優しい時は優しい先生など、多様な先生がいると良い。自分の国の文化を紹介する教科があって、外国人も日本人も楽しめるが良い。修学旅行やイベント、教科書など、お金を使うことは大事にして欲しい。こういう高校なら行ってみたい。
22	35	外国人の中でもいじめが起こるので、入った子がいじめられそうで心配です。全ての生徒に平等に接してくれる先生や外国語が話せる先生がいると良い。お金が高いと親が入れにくい。生活が貧しい子たちも入れるくらいの学費が良い。制服があると、この子はこの学校だと分かるから良い。こういう学校にして、後輩たちには、元気に生活してもらいたい。
23	36	日本語を勉強する子供が岩倉市に多いので、岩倉市に中高一貫校をつくってほしい。また、日本語の勉強では漢字が多く、外国人の勉強のレベルが同じではないため、外国人の高校をつくってほしい。多く勉強して疲れるので、5時間授業など早く帰れる学校をつくってほしい。沢山勉強ができて、沢山仕事出来るので、高校へ行きたい。(在留資格が家族滞在であるため、高校卒業資格がないと沢山仕事出来る在留資格が取れない)

番号	応募者 番号	御意見の概要
24	37	愛知県には、外国人が沢山いるので、面接は英語でも自分の国の言葉でも可能にして欲しい。中学1年生でもテストをパスしないと、もう1回、中学1年生の勉強をすると良い。理数と社会は日本語が難しく、第一言語（母語）であると理解が出来るので、第一言語（母語）で教えて欲しい。
25	38	外国にルーツのある生徒のための中高一貫校をつくることは、外国にルーツのある生徒への差別、ヘイトスピーチにつながると考えられるので、反対である。
26	42	不登校・外国にルーツのある生徒を対象とした中高一貫校で、スクールソーシャルワーカーやスクールカウンセラーなどの常駐化を検討することは、とても良いことであるが、全ての学校の生徒が恩恵にあずかれるよう人数を増やしてもらいたい。
27	44	今日の実態を踏まえれば、西三河しか候補校となっていないが、全県的な広がりが必要だと思う。外国にルーツのある生徒が通う中学校や夜間中学と連携・調整して、全ての子どもに教育の機会が保障されるようにしてもらいたい。また、生徒の学習権を保障するために、全県1校とは限らず、通いやすさに配慮した配置に向けて議論してもらいたい。

(2) 県の考え方

近年、日本に在留する外国人は、増加の一途をたどり、それに伴って、学校に在籍する外国人児童生徒は年々増加しております。特に、愛知県では、日本語指導を必要とする児童生徒数が最も多く、外国人児童生徒の母語は、多様化が進んでいます。

外国人児童生徒に対する教育として、日本語指導は必要であります。単なる辞書的理解では、学習活動に参加する力が育っていかないのが現状であります。

そこで、日本語指導が必要で外国にルーツのある児童生徒が、教科学習にゆとりをもって学ぶことができる中高一貫校を設置することとしました。

次に、外国にルーツのある生徒を対象とした中高一貫校ですが、西三河地区の外国人生徒選抜実施校から中心に検討します。そしてさらなる設置については、このタイプの中高一貫校は、全国でも例がないこともありますので、まずはモデル的に1校設置することとしております。

なお、具体的な教育内容は、今回いただいた御意見を参考にしながら、導入校ごとのワーキンググループで検討します。

12 地域を支える人を育てる中高一貫校（美和）

（1）御意見の概要（1人）

番号	応募者番号	御意見の概要
1	27	中学校へ出向く、ICTを活用、探究科目を増やす、地域連携活動など、様々な取組が記載されているが、予算と人員を確保し、教員の多忙化とともに取り組めれば良いと思う。

（2）県の考え方

具体的な教育内容や連携の仕組みは、今回いただいた御意見を参考にしながら、導入校ごとのワーキンググループで検討します。

1.3 高度ものづくり型（愛知総合工科）

(1) 御意見の概要（5人）

番号	応募者番号	御意見の概要
1	21	現役高校教員の能力では限界があるため、県内企業から教員を派遣してもらうグローバル人材を目指す教育が必要であり、こここそ国際バカロレアの導入が必要だと思う。
2	28	特に名古屋市内に、AI・データサイエンスを含む、コンピュータサイエンス全般（情報工学）と、グローバルで活躍できる人材のための英語教育、グローバル社会で活躍するために必要となる「ディベート力」の融合した教育が、これからの時代、愛知の未来に最も求められている。例えば愛知総合工科高校内に、アップデートした新たな学びがあっても良いと思う。
3	31	既存の企業や教職員のレベルを超えた最先端でユニークな内容とするため、県のスタートアップ企業と連携して、非常勤講師を招くと良い。
4	33	授業の休み時間に色々調べられるよう、学校にスマホを持っていくと良い。一か月に一度、自分が好きな教科が選べると楽しくて良い。高校3年生と中学1年生は年齢が違って質問しにくいので、ロボットを2体作って、そのうち1体は、中学1年生が解体して作り方を学べるようになると良い。
5	44	デジタル技術を習得する技術者には、総合的な知識や判断が必要なので、視野の狭い専門家とならないように、特に中学校では、普通教育にしっかりと取り組んでもらいたい。 また、高校進学時に他校への転出、理工科以外の学科への進級に触れられておらず、進路が限定的になっていると思う。

(2) 県の考え方

具体的な教育内容は、今回いただいた御意見を参考にしながら、導入校ごとのワーキンググループで検討します。

なお、中学生の中には、併設の高校とは異なる進学先を希望するケースが出てくるのが想定されます。その際には、生徒が自分の個性にあった進路選択ができるよう、生徒や保護者に対応していくものと考えております。

1 4 施設整備

(1) 御意見の概要 (1人)

番号	応募者 番号	御意見の概要
1	28	校舎にも積極的に投資し、古い校舎の場合には、これからの時代に相応しい最新の校舎と、二酸化炭素排出量が少ない断熱性が高く省エネ化した校舎に更新すべきだと思う。

(2) 県の考え方

中学校用の施設として、普通教室や、技術室を始めとした特別教室、職員室等の管理諸室、小体育館を整備します。

15 今後の進め方（P13）

（1）御意見の概要（5人）

番号	応募者番号	御意見の概要
1	32	中高一貫校であるため、中学校と議論を進めることもあると思う。高校では中学校のことがよく分からないので、導入校へ丸投げしないようにしてもらいたい。
2	40	教員配置やカリキュラムなどが、現場のワーキンググループで検討されるが、導入校の教員に過度な負荷がかからないかが心配。
3	43	今の学校現場や保護者等、広く県民の声を聴き、その声の方針案に反映されているか、疑問に思う。課題を予想して対策を的確に講じながら、具体的な進展を図ってもらいたい。まずは、パブリック・コメントにより、方針案が修正された形となってもらいたい。
4	47	課題や問題点が解決できれば、地域社会で期待される学校になると思う。しかし、家庭の受験準備期間が短いことや、導入校の教職員が激務の中で重責を担い、短期間で準備を行うこと、中高一貫教育の予算不足や、生徒・家庭へ経済的負担に対する懸念が強く、中高一貫教育の導入に賛成できない。
5	48	各高校でこれまで積み重ねてきた伝統がある分、中学生を迎え入れるための調整が必要である。スムーズに交流・混合できるよう、情報提供や、人員配置、設備の早期充実など、ハード・ソフトの両面で対応していくことが必要だと思う。 一期生の大学進学実績で成果判定をすると、受験対策目的の制度だと思われるので避けるべきだと思う。大学卒業後に、生徒へアンケートを行うなどして、中高一貫校の取組が、その後の学習・研究・社会生活にどう生かされたかを判断すべきである。

（2）県の考え方

中高一貫校の開校に向けて、教育課程の編成や教員配置のほか、給食や部活動など、様々なことを決めていく必要があります。そのため、導入校ごとに、実務者レベルのワーキンググループを設置して、具体的な検討を開始しました。（現在は第一次導入校のみ実施）

このワーキンググループでは、導入校、地元の義務教育関係者、県教育委員会が参加して、検討しております。

また、県教育委員会の体制については、導入校ごとに担当をつけ、ワーキンググループとやり取りしながら、内容を詰めていくとともに、大学などの外部機関との連携を含めた体制で取り組んでいきます。

そして、導入校ごとのワーキンググループの検討状況は、より幅広い委員で構成する「県立高等学校再編将来構想具体化検討委員会」と、その部会でチェックし、導入校ごとの中高一貫導入アクションプランとして取りまとめていきます。